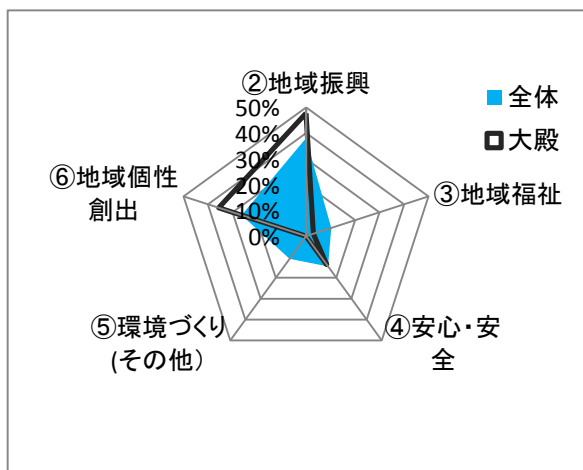


おおどのコミュニティ協議会 地域づくり交付金事業概要(平成27年度)

■地域の情報

地域人口	7,449人	自治会数	29
世帯数	3,333世帯	自治会加入率	91.81%

※数値は、平成28年4月1日のもの



■決算状況

交付金配分枠	8,839,000 円
交付金決算額	8,380,883 円
その他収入	451,749 円
交付金決算額/配分額	94.8%

各分野の決算

①協議会運営	4,171,812 円
②地域振興	1,999,732 円
③地域福祉	125,923 円
④安心・安全	572,926 円
⑤環境づくり(土木工事)	468,000 円
⑤環境づくり(その他)	996 円
⑥地域個性創出	1,493,243 円
決算総額	8,832,632 円

■地域づくりの活動方針(テーマ)

心豊かに暮らし続けることができるまちづくり「住んでみたいまち 訪れたいまち 働くところのあるまち」

■総括

第3期地域づくり計画に沿った活動のスタートの年、構成団体・連携団体の増加や新しい運営委員・部会員の参画があった。これを受け運営委員会で、「協働のまちづくりとおおどのコミュニティ協議会」や「つながる大殿七夕ちようちんの灯事業」についての研修を実施した。運営委員会と専門部会(あんぜん・やすらぎ・にぎわい)の役割を再確認することができた1年となった。年間行事予定表や部会別事業スケジュール表の活用により、各事業は地域づくり計画に掲げた課題解決のための事業だという認識も深められてきた。出席者数にバラつきもみられるが、みんなで話し合い、「実施、検証、次へつなげていこう」という会議運営ができています。引き続き、地域課題は部会からのボトムアップという視点を大切に、積極的に取り組んでいく。つながり分野の課題解決に向けては、ホームページ運用や研修事業など、まだ試行段階であるが、一歩ずつ進めていきたい。

■分野別事業名

① 協議会運営	事務局人件費及び事務費
② 地域振興	地域情報の発信と広報活動事業、体育振興事業、地域コミュニティ推進事業、助成金交付事業
③ 地域福祉	三世代交流事業、健康安全教室事業
④ 安心・安全	大殿地区安心安全のつどい事業、地域見守り活動事業、反射鏡設置事業
⑤ 環境づくり	環境整備事業、土木工事(法定外公共物・単市土地改良)
⑥ 地域個性創出	伝統文化の保存継承事業、チャレンジ大殿健児交流事業

■重点的に取り組んだ事業

①	事業名	地域情報の発信と広報活動事業	決算額	405,161円
	目的	地域情報の共有や発信を進めていくため。		
	実施内容	ホームページの刷新及びコミュニティだよりの発行。地域情報の収集と発信。		
	実施時期	平成27年5月～平成28年3月		
	参加人数	20人		
	成果	懸案であったホームページを刷新できた。コミュニティだよりで各部会の情報や事業の告知を定期的に発信できた。		
	評価	情報発信のあり方を検討する広報部の担い手をどうするか、検討していく必要がある。		
	今後に向けて	構成団体等との連携強化とともに広報部を機能化していきたい。		
②	事業名	地域見守り活動事業	決算額	489,560円
	目的	地域の安心安全な生活を確保し、安全意識の啓発を図るため。		
	実施内容	重点事業「大殿サポート3ちよきマップ」の製作。見守りを広い観点から捉えた連携強化、情報交換会への出席。		
	実施時期	平成27年4月～平成28年3月		
	参加人数	100人		
	成果	各町内会の協力のもと、編集作業及び「大殿サポート3ちよきマップ」製本に向けた確認作業を実施した。平成28年4月にマップを全戸配布、学校等にも配布。部会において、マップを活用した取り組みについて意見交換できた。		
	評価	バラバラに情報提供されていた交通安全や暮らしの安心・安全につながる情報をひとつのマップにまとめることができた。		
	今後に向けて	マップを活用した見守り活動となるよう諸団体間の情報交換会を行うほか、安全旗の補充の検討、高齢者の見守りについて勉強会を実施するなど、部会協議を深めていきたい。		
③	事業名	伝統文化の保存継承事業	決算額	1,256,740円
	目的	地域の伝統文化(祭り)を通して地縁の強化を図るため。		
	実施内容	地域内で開催される「祭り(ほたる祭り・ちょうちん祭り・ふるさとまつり)」の実施。		
	実施時期	平成27年5月30日・8月6日～7日・11月7日		
	参加人数	1,230人		
	成果	町内会をはじめ、OTK(大殿中大殿地域に貢献し隊)や大勢のボランティアの協力によって、つながりが広がっている。		
	評価	地域のつながり、地域の誇り、地域への愛着が感じられる事業になった。		
	今後に向けて	引き続き、「持続可能なもの」としていくために意見集約を重ねて運営を工夫していきたい。		